

ゆうがお

ウリ科：北アフリカ、インド、タイなど、熱帯地方

栽培暦

月 旬	4			5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業																		

■栽培のポイント

1. ウイルス病の予防
2. 人工受粉による着果

■品種・種子量 大長夕顔、a 当り 15 粒。

■育苗 ウイルス病予防のため、サイドを寒冷しゃで被覆したハウスで行う。消毒済みの種子を一昼夜水に浸し、10.5 cmポリポットに1粒播きし、地温を25～28℃に保つ。発芽後 地温を20℃に下げる。5葉時に、親づる摘心を行う。育苗後半は夜温を徐々に下げ、定植までに苗を順化させる。

■施肥 a 当り堆肥 200 kg、苦土石灰 10 kg、窒素、リン酸、加里ともに 2.0～2.5 kg 程度とし、基肥としてその 50% を施用する。追肥は 2 回に分けて行う。

■仕立て方 平うね地這い栽培か、棚仕立てとする。棚仕立てではパイプハウスの骨組みにきゅうりネットを張り、株間 1.5m とし、2 本仕立とする。地這い栽培では、平うねに敷きわらやシルバーマルチを行い、うね幅 6m の中央に株間 2m に植え、3 本仕立とし Y の字に誘引する。

■管理 ○整枝 子づるは放任し、孫づるは 3 葉摘心を行う。

○交配 夕方 5 時頃から人工受粉を行う。

○摘果 1 株当り着果個数 10 果を目標に摘果する。

○かん水 乾燥に弱いので、適時かん水する。

■収穫 受粉後、7 月中旬どりで 3～4 週間、盛夏期は 2 週間で収穫する。

■病害虫防除 病害はうどんこ病に注意するとともに、ウイルス病（キュウリモザイクウイルス・カボチャモザイクウイルス）対策のためアブラムシの初期防除を徹底する。